



生徒発・地域に目を向ける活動

東 中 学 校

今年度の東中学校生徒会の重点項目は次の三点です。

- ① 声をかけ合う学校
 - ② 地域に目を向ける学校
 - ③ 反省のサイクルづくり
- この中の「地域に目を向ける学校」については、次のような取組をしてきました。

- ・あいさつ
 - （登下校時、地域の方へのあいさつ）
 - ・須坂荘との交流（奉仕活動）
 - ・ごみ拾い登校
 - ・地域の方へアルミ缶回収の協力要請
 - ・保育園での手洗い指導
 - ・地域に関する本の紹介
 - ・東中学校のバス停の清掃
- これらは、各委員会等で「地域に目を向ける活動」として考えて実行してきたものです。

そして、東中学校の文化祭の中に計画される一時間ほどの生徒会企画でも、「地域に目を向ける活動」として何かできないものかと考えられた企画が「地域の方を講師に招いた体験講座」でした。この生徒会企画は、東祭二日目に行われます。

まず、役員を中心に、役員が運営委員としてお手伝いができて、全校生徒に楽しんでもらえる講座を考えました。その候補の中で、今回の講座は、学区、仁礼・豊丘地区にいらっしゃる講師の方を中心にお願ひできるものにしてしましました。そのため、講師の中には保護者の方もいらっしゃいました。お手伝いしていただけるお気持ちがあってもご都合が合わなくて、今回は断念した講座もありました。講師の方との交渉の

第223号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会理事長 岡田 哲夫
 編集人 会報編集委員長 宮坂 ゆかり
 印刷所 須坂新聞社

末、次の七つの講座を企画することができました。

- ①うどん作り②和楽器・神楽
- ③切り絵④ニュースポーツ⑤書道⑥絵手紙⑦野球

各講座を全校生徒の希望をとりながら役員で調整し、一講座が二十人から三十人程度の講座となりました。講師の方がお手伝いの方々を呼んでいただき、教えていただける方が大勢みえた講座もありました。

当日の打合せ、講師の方のお迎え、当日の運営、講師の方のお見送りまで、生徒会役員を中心とした運営委員で行いました。



和楽器・神楽

「専門の人に教えてもらえてよかった。」「ほめてもらえてうれしかった。」



切り絵

等の感想がありました。教職員からは「いい企画だった。ぜひ、続けていきたい。」「教科の授業や他の場面でも協力していただきたい。」との声がありました。講師の方からは「時間が十分ではなかったけれど、生徒と楽しい時間を過ごせました。」等とおっしゃっていました。



ニュースポーツ

「生徒発・地域に目を向ける活動」— 今回の生徒会企画で得た地域とのつながりを東中学校の財産として今後に生かしていきたいと思えます。

（興 幸雄）

教育会だより

- 7 29 教育会創立三〇周年記念講演会
 ○講師 戦場カメラマン 渡部陽一氏
 ○演題 「戦場の現場から祈りを捧ぐ」
- 8 20 〃 8 3 同好会夏期講座
- 8 20 〃 21 日連教富山大会
- 24 教研推進委員会⑦
 教研学校代表者会
- 9 1 教育七団体代表者会
- 3 理事会④
- 4 教研推進委員会⑧
 教研分科会長会
- 5 第62回上高井教研集会
- 10 研究推進委員会④
- 11 同好会⑤
- 15 総会(代議員会)④
- 30 理事会⑤
- 10 2 研究推進委員会⑤
- 5 教育会会計中間監査会
- 13 信教道徳研究協議会(墨坂中)
- 15 同好会⑥
- 17 〃 18 郡市科学作品展(シルキホール)
- 28 理事会⑥
- 29 研究推進委員会⑥
- 31 〃 11 あゆみ展 市学芸展(シルキホール)
- 11 研究推進委員会⑦
- 11 研究委員会公開研究会
 ○中心講師 伏木久 始先生
 会場 高山中 社会科
- 国語(墨坂中、社会(高山中))
 算数・数学(常盤中)、理科(高山中)
 生活・総合(日野中)、音楽(仁礼小)
 図工・美術(相森中)、体育・保健(墨坂中)
 家庭・技術・家庭(常盤中)、外国語活動(英語)小布施中、道徳(特別活動)粟方丘小
 特別支援教育(粟方丘小)
- 健康教育(森上小)、人権教育(小布施中)
- 21 信州「教育の日」塩尻大会(レザンホール)
- 『どまに学びどまに育』環境づくりをめざして
- 27 総会(代議員会)⑤
- 12 4 研究推進委員会⑧
- 11 教研三団体代表者会
 同好会⑥
- 17 15 12 上高井教育会報第223号発行
 研究委員長会③

各校の教育活動特集

高山村中学生議会

高山中学校

中学生議会とは、未来をになう生徒たちが、「故郷高山村」をテーマに各学年で総合的な学習で学んだことや学校生活の中から、高山村の将来について考えたことや意見・要望を直接提言できる議会である。

また、議場を村議会議場からそのまま中学校体育館に移し、議長ならびに議員も中学生が務めるので、高山村の行政についての理解を深め、地域住民の一員として自覚を深める機会にもなっている。

過去には、ゴミ袋の七カ国語

表示、教室棟の水道設置、ソーラーパネルの設置などの提案によって、高山村全体を動かすことにつながってきている。

今年度は、一学年「高山村の自然の保全についての提言」

二学年「職場体験学習のお礼と地元特有の職場体験場所確保への提言」

三学年「平和学習について学校祭以外の場で発表する場を位置づけて欲しい提言」

その他、部活動や生徒会からも村に対する要望や提案が出された。



生徒からは、「自分たちの村について考えられ、それを提案できるとてもいい機会」

「今後

も村のために言をしたい」

「自分たちの政治に参加することもとてもいい勉強になる」という感想があり、充実した中学生議会になった。

(浅野 恵子)

子どもやんしゃー二〇一五

日滝小学校



九月十二日(土)に子どもやんしゃー二〇一五が、日滝小児童、保護者、職員、地域の方々合わせて約百二十人の

参加で行われました。今年で四回目を迎えるこの行事は、日滝地域づくり推進委員会、各町の役員さんやPTAが連携して企画・運営し、子どもたちが地元である日滝を知り、日滝を大切に思う心をもつことを願って行われるイベントです。毎年日滝地域内にある史跡めぐりをしたり、伝統行事を体験したりすることができま

今年、大谷町を中心に内容が生まれ、「弁天さま」の由来

と伝統芸能である「餅つき」について学びました。普段お祭りの時にしか開かないお堂の中にある「弁天さま」を興味津々で見学したり、「餅つき」の実演では、保存会の方々との合った仕事や漫才のような愉快な掛け合いに笑顔や拍手で声援をおくったり、実際に神楽の笛や太鼓などに喜んで触れたり、音を出したりしている子どもたちの姿が見られました。

「地域に伝わる大切なものを地域の方々の手で子どもたちに伝えてくださることに感謝したいと思います。」

(中澤 光)

本校の宝 67

日野小学校

日野小学校は明治四十三年に八重森からこの地に移り、新しい校舎が建てられました。五年前には百周年を迎えた伝統ある学校です。

その校舎建設の時、校庭と中庭の二ヶ所に池や山が築かれ、当時の村人が提供してくださった木々が植えられました。当時の学校としてはすばらしい庭園ができあがり、この藤もその時、塩川に住む田中様から寄贈されました。その後、奉安殿の建設やバックネットの移設などに伴い、最終的に今の位置に植え替えられて花を咲かせています。

藤棚の下には、七十周年の時に設置された永戸朋納初代PTA会長による「藤の思い出」の一文が飾られており、その最後は次のようにまとめられています。

「かたく組み合って離れぬ枝、風になびかせ、たれて咲いても仰ぐことのできる花は、私たちに何かを教え、ささやいているように見え、いみじくもまた尊い姿であります。ふじよ、藤よ、学びやとともにいつまでもすこやかであ



れ。」

そこには、学校・地域・保護者が一体となった学校づくりへの期待と日野の子どもたちが謙虚にして気高く成長してほしいという強い願いが込められているように感じます。

このように日野小学校の変遷を見守り本校のシンボルとなっている藤は、校門を入ってすぐの場所にあります。開校九十周年の際に藤棚の全面改修が行われ、写真のように校歌の石碑とともに登校してくる子どもたちを見守ってくれています。(宮坂 俊之)

火ばら 談義

「記念日」集め

櫻井 里菜

私は、今年度の四月から初任者として栗ガ丘小学校に赴任しました。初めて担任となり、まだまだ慣れないことばかりですが、元氣いっぱいいな二年二組のみんなと毎日楽しく過ごしています。今、一年二組では、クラス全員で何かを達成した時の「記念日」を集めることをがんばっています。



四月、給食が始まった頃のことです。初めての給食は子どもたちにとって、はなかなか多く、全てを食べきれず残してしまったり、う日々が続きました。そんなある日、クラスのみんなで協力して、初めて給食を完食した日がありました。その時のみんな

の歓声は、今でも忘れることができません。小さなことかもしれないけど、苦手なことや難しいことでも、友だちと協力すれば達成することができると知った瞬間でした。その時、一人の男の子から、「やったね。全部食べられた記念日だね。」という声がありました。その日から、一年二組の「記念日」を集めることが始まりました。

初めの頃の「記念日」は給食にまつわることだけだったのですが、あることをきっかけにして内容はだんだん広がりはじめました。それが、「掃除の記念日」です。

栗ガ丘小学校では、一週間無言清掃をがんばると、お昼の放送で静かだった掃除場所を発表してもらえます。初めて一年二組を呼んでもらえた時、「ねえねえ、これってもしかして記念日になるんじゃない？」と子どもたちから声がありました。そこから、学校生活の中にはどこにでも「記念日の種」があるのだと私自身が気づき、協力して達成できたことは「記念日」にしていこうとみんなで決めました。その内容は今では多岐にわたったり、あいさつを大きな声でできたり、下校の前に名札を全員が早く入れることができたりしたのも、「記念日」になっています。今では何が記念日になっていくのか予測不可能なところもまた面白く感じています。

最近、ついに「記念日」が三十を超えました。これからもどんな「記念日」が子どもたちから作られていくのか、とても楽しみです。
(栗ガ丘小)

『発見の日々』

伊藤 真未

相森中学校の特別支援学級「ハーモニー」は元氣な男子四名と、同じく元氣な女子一名の、合計五名のクラスです。作業学習では、ラベンダー製品やクッキーの製作・販売を通して、「働く」ということにつ



いて考えています。一緒に作業をしています。いろいろな発見があります。クッキーを作っているとき、バターを溶かすのが上手な人、生地を混ぜるのが上手な人、生地をラップで巻くのが上手な人、焼き色を見て分け

るのが上手な人、それぞれ得意なことがあるのだと気づきました。ラベンダーの作業でも、刈り取るのが上手な人、束を作るのが上手な人、ポプリの袋を縫うのが上手な人、ラベンダーを詰めるのが上手な人、それぞれ得意なことをがんばって、補い合って取り組むことが大切なのだ気づきました。

作業は楽しいことばかりではありません。ラベルを切ったり貼ったり、ポプリの袋の形を整えたり、クッキーを割らないように袋に入れたり、地味で大変なものもあります。しかし、やりたくないと感じてしまう仕事でも、最近はずいぶん「めんどくさいと思うけれど、がんばってみよう」になってきました。それと共に、だんだんと販売活動での声が変わってきました。「いらっしやいませ」「ありがどうございました」だけではなく、「〇〇がおすすです」など、お客さんに対して商品売り込み言葉が出てくるようになりました。製作・販売活動を通して、自分から行動することが大切だと気づいたのかな、と成長を感じ、うれしくなりました。

昨日できなかったことが今日できている、という発見をするのが私の一番の楽しみです。毎日できることが少しずつ増えていくハーモニーの生徒たちを見ていくと、私もがんばろうとやる気が出てきます。初めて

のことばかりで、私自身が不安を感じることもありますが、元氣で楽しいハーモニーの仲間たちがいちも励まして、支えてくれます。大切な仲間とともに、私も成長していきたいと思えます。
(相森中)



カット
日滝小 田村淳樹

編集後記

平成二十七年会報二二三号を発行し、無事お届けすることができました。

今年は、本会二三〇年の節目の年です。伝統の本質を継承しながら、今、目の前にいる児童生徒に向けて取り組んだ教育活動や実践の記録、先生方の思いの詰まった会報を願って編集しました。各校・先生方の思いを感じ取っていただけたら幸いです。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました会員の皆様、心より感謝申し上げます。

(齊藤)